
リハビリテーション天草病院だより

2020年1月

No. 93



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

当法人諸施設の今年の抱負

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

令和2年の新春を迎え、心よりお慶び申し上げます。今年も様々な分野でのご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

さて、当法人はリハビリ病院、介護老人保健施設(以下、老健)などを設置・運営しておりますが、この稿では、病院、老健について今年の抱負を簡単に述べさせていただきます。

■リハビリテーション天草病院

今年4月には開院して45年目に入ります。リハビリ病院としては老舗病院と言えます。老舗病院として恥じない様に全職員研鑽に努め学問的根拠に基づくリハビリを更に充実させ患者さんに奉仕致します。「早期入院・早期退院(勿論、十分なりハビリ実施後の退院)」を今年の病院における合言葉に致します。従って、「入院までお待たせしない病院」を心掛けます。回復期リハビリ病棟は診療報酬上6ランクありますが、当然、全ての病棟(3病棟、合計175床)で最高位ランクを維持します。又、医師を手厚く配置している病院に与えられている「体制強化加算」も維持しなければなりません。更には、鼻腔や胃瘻栄養が口から食事が出るようになった患者さんの率を評価する加算も前年報告では52%でしたが、それ以上を目指します(加算は35%以上が対象で、全国で加算病院数は6%と極めて少ない)。

一方、外来部門では、通院リハビリは元より特殊外来(予約制ですので来院前に必ず電話等でお問い合わせ下さい)にも力を注ぎます。順天堂大学リハビリ科教授・藤原俊之先生の「痙縮(本誌NO.90で解説)」に対するポツ

クス外来、獨協医大埼玉医療センターリハビリ科准教授・大林茂先生の高次脳機能障害外来、日本歯科大学口腔リハビリ多摩クリニック・古谷裕康先生の摂食嚥下外来で、脳卒中後遺症で治療が難しいとされる痙縮、高次脳、摂食嚥下でお悩みの方々のお役に立ちたいと思います。《問い合わせ先 ☎048-974-1171》

■介護老人保健施設シルバーケア敬愛

老健の方も、その設置が法律で認められたのと同時に平成元年4月1日開設しましたので老舗老健と言えます。30年間の長年にわたる実績は地域の皆様から信頼を頂いているものと自負しておりますが、古いが故に改善しなくてはならない課題を多く抱えています。入所部は介護保険報酬上5ランクに分かれ、当老健は最上位ランクに位置するものの、開設当時の建物の老朽化や医療・介護機器などの増加に伴い手狭となり決して快適な療養環境とは言えず、そこから波及する、例えば、天草病院で経験を積んだりハビリスタッフは18名と大勢いるのに効率的なりハビリ提供に支障を来しているのではないかと、入所者のモチベーションに悪影響を及ぼしているのではないかなどなど考え込んでしまいます。今年は、数年後の建て替え工事を見据え少なくとも予算書と平面図作成には着手します。通所部では、1日平均120名以上の方にご利用頂いておりますが、全ての利用者が長時間対応となっています。今年の4月から試験的に一部の方に送迎付きの短時間利用を実施し、利用者の選択肢を広げることに決定しました。

自動車運転再開支援リハビリ

リハビリテーション部 主任（地域リハ担当） 原田 理恵

1. 自動車運転再開支援リハビリとは

当院では脳卒中・脳外傷などの後遺症により運転再開へ不安のある方を対象に、神経心理学的検査及び運転シミュレーターを用いて自動車運転再開に向けた支援をしております。

脳卒中・脳外傷などの後遺症には、身体的な障害だけでなく、高次脳機能障害（注意障害、記憶障害、半側空間無視など）が生じる可能性があります。特に高次脳機能障害は「見えない障害」と言われ、他者から分かりにくく、自分自身でも把握しづらいため、評価を通して自分自身の状態を把握し、運転再開を検討する必要があります。

2. 当院で使用している運転シミュレーターについて

HONDAセーフティナビを使用し、パソコン3画面ディスプレイに簡易ステアリング・フットペダルを取り付けたものとなっております。

運転シミュレーターでは、運転に必要な運転反応検査（反応時間の速さや複雑な課題への正確性など）と危険予測体験（難易度別のコース走行）等を評価しています。



▲当院の運転シミュレーター

3. 運転再開支援の流れ

①運転再開への希望の意思表示

当院入院・通院中の方は、主治医や担当リハスタッフへ希望の旨をお伝え下さい。

それ以外の方は電話にてお問い合わせ下さい。（TEL：048-974-1171代表）

②主治医の運転評価指示

主治医から担当リハスタッフへ運転再開に向けた評価指示が出ます。

③評価内容の説明と同意書へのサイン

担当リハスタッフから評価の流れをご説明した後に、同意書へサインして頂きます。

④運転再開に向けた評価

評価は担当リハスタッフが行います。

評価内容は、運転操作に必要な身体能力の確認及び運転に必要な注意（持続、選択）・判断・予測などを紙面上と運転シミュレーターを通して評価し、確認します。

⑤評価結果の説明

主治医及び担当リハスタッフよりご説明致します。

※最終的な運転再開の判断は、免許センターとなりますのでご注意ください。

4. 家族教室「脳卒中・脳外傷後の運転再開に向けて」のお知らせ

令和2年2月19日（水）15：00～15：30
当院1階生活リハ室にて開催予定です。

参加費無料でどなたでも参加可能ですので、ご興味のある方はぜひご参加頂けると幸いです。

「三回の転院に想うこと」

越谷市 F 様

平穏な日々は、父が転倒したその時から一変しました。平成31年4月20日の夜、自宅の廊下でうつ伏せに転倒してしまった父は、意識もしっかりしていました。「なんでもないよ」と言い張る父でしたので湿布などの応急処置をして様子を見ることにしました。翌日は普段通りに起きて朝食を摂ったものの何となく表情に違和感を抱き念のため市立病院を受診しました。医師の診断はCT画像の結果をみてもすぐに入院の必要はないが、頭を打ってしばらくしてから出る症状がいくつかあるので注意が必要と言われました。ところが、そのあと父は突然けいれん発作を起こして、そのまま入院となりました。症候性てんかんと言う病名で抗てんかん剤の投与により徐々に発作はなくなりましたが、約1ヶ月の入院の間に歩行障害、言語障害の症状が気になりました。病院側からも、早期のリハビリが必要と言うことで天草病院に転院する事が決まりました。

天草病院では、担当医の先生を始め、看護師さん、リハビリの先生方皆さんに笑顔で迎えて頂き、私たち家族も希望が湧いてきました。ところが、父の本格的なりハビリがスタートして一週間が過ぎた頃から体に力が入らない、意欲低下などの異変が見られるようになりました。CTを撮った結果、慢性硬膜下血腫という頭を打ってから徐々に頭蓋骨と脳の間で血が溜まる病気でした。翌日には市立病院に再入院となり、その日の内に頭の血を抜く手術を受けました。そのあとも再発を繰り返した結果、三回の手術と転院となっ

ていました。それまで、担当医から再発の可能性の説明は受けていましたが三日目の時は流石に心が折れそうな思いでした。それでも、三回の手術を受けてリハビリをなんとか頑張っている父の姿は、逆に私達家族の励みとなりました。恐らく、父にとって一番辛かったのは、手術よりも鼻からの経管栄養になった時でしょう。食べることが何よりも楽しみである父が、食事を口から摂れない苦痛は計り知れません。それでも粘り強くリハビリを続け、7月初めに飲み込みの検査をした結果、鼻の管も外れて、ミキサー食が摂れるようになりました。その時に行った嚥下造影検査でパソコンの画面を通して父の飲み込みの様子を見ていた私たち家族は涙が溢れて止まりませんでした。これも全て熱意と意気込みをもってリハビリをして頂いた先生のお陰で長い入院生活となりましたが、こちらの病院にお世話になれたことは父にとっても家族にとっても有難いことばかりでした。面会時には看護師さんから食事の様子や夜中の様子などを細かく報告して頂きとても助かりました。また、リハビリの時に歩く事を拒んだり「家族が来ているから早く終わらせて」などごねては先生を困らせたことも多くありました。それでも、根気よく諦めずに父に温かい言葉をかけながら寄り添ってくださった先生には頭が下がります。今は無事退院も決まり、自宅での車椅子生活に向けて準備を始めています。正直なところ、不安な気持ちもありますがリハビリの先生の「頑張りすぎないで」の優しい一言に、背中を押された思いです。改めて、人は人に支えられて生きているのだと気づきました。最後に主治医の先生を始め、看護師の皆さん、リハビリの先生方には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。(投稿日 令和元年9月18日)

「皆さんへ感謝」

野田市 高橋 喜美子

先代からある畑で義母の後を継ぎ、農作業をしていました。6月上旬の夕方に草取りをしていて、気分が悪くなり倒れ野田市内の病院に入院、小脳梗塞と診断されました。小脳梗塞で「嚥下障害」があり当時は飲み込みが出来ず喉の訓練と経管栄養を摂っていました。「痰」が出て数日間ゼリー食が続きました。約1ヶ月後しっかりリハビリが出来る病院、天草病院を紹介されました。7月下旬に天草病院に転院したその日に経管栄養の「管」が取れ、ゼリー食からお粥食、小刻みになりました。お風呂も個人浴に変わり自宅のお風呂の気分になりました。中刻み、軟飯をへて8月の半ば過ぎ常食になり、最初にお粥を口にした時は夢かと思われられない味でした。長男の嫁は感激で涙を流してくれました。孫も側で見守ってくれて「自宅に戻ったらお粥を作ってあげるね」と話をしたら断われました。元の自分に戻れることを強く願いながら、歩行訓練に毎日励んでいます。現在は一階と二階を歩く事の許可が出て、筋肉をつけてしっかり歩けるようリハビリの先生に伺いながら運動を続けています。主治医先生の回診のたび順調に進んでいる事に対し喜びを感じています。先生方を始め、各リハビリの先生、看護師さん、介護士さん皆さんが患者さんを第一に丁寧に優しく接して下さり感謝しております。リハビリの先生は私が歩く事が嫌いだと判っているのに、必ず廊下を廻りリハビリ室に向かいます。先日、リハビリの先生と一緒に外を500m位歩きました。私のおしゃべりを和やかにし、時には粘り強く指導してくれます。病院内は病室をはじめ、全ての部屋の掃除が行き届いていて綺麗です。明る

いりハビリ室で設備が整った環境でリハビリが出来ることに感動しています。他の患者さんも自分の事で大変なのに、いつも笑顔で色々話をしてくれます。一緒に励まし合い自分もプラス思考になります。食堂の雰囲気も明るくみんなで食べるご飯は美味しいです。どんな時も家族と娘家族が励まし続け親身になって世話をしてくれることに感謝しています。出来るだけ元気になって家に戻りたいと強く願い今はリハビリを頑張っています。

(投稿日 令和元年9月4日)

感謝の声 (投書箱より)

こちらの病院にお世話になり、術後どんどん良くなっていくのが本当に日々分かる事が嬉しくなります。高齢で車椅子になった時点で、本人も家族も普通の生活を諦めておりました。毎日行ってくださるリハビリ、週3回の入浴、考え抜かれた食事、その時々にして頂ける医療。今現在、杖を使っ

ての歩行する姿を見ると涙が出ます。感謝しかありません。ありがとうございます。(B病棟 患者様家族より)

入院当日より先生方の診察、翌日からリハビリの見学、面会の度に父らしさが戻り回復を確認し、母と2人何度も目頭を熱くしました。梅雨から夏本番となった今、先生方の汗を拭う事もなく仕事をされている姿を見て貴院に入院出来た事に感謝すると共に、父の病気を受け止め、障害を受け入れる事が出来ました。本当にありがとうございました。また、全介助で手がかり、様々な危険を抱えた父を24時間見てくださる看護師の方々。質問に丁寧に答えて下さり1つ1つ理解が深められました。物言えぬ父の看護、いつも感謝しかありません。(C病棟 患者様家族より)

リハビリ医療機器「Attention」を導入

リハビリテーション部 主任 言語聴覚士 唐澤 健太

《「@ATTENTION」を導入》

この度、当院では対象者の方に最適なサービスを提供するために、リハビリ医療機器の「@Attention (アテンション)」を導入しました。@Attention は半側空間無視等の障害の客観的評価および症状改善の為の介入手段を提供するPCを用いたリハビリテーションツールです。

《半側空間無視とは?》

脳の病気によって生じる高次脳機能障害の一つの症状です。目では見えているのに、見ている空間の半分に対して注意が向きにくくなる状態です。左側にある食べ物に気付かず食べ残してしまう、左側にある物にぶつかり転倒の危険性がある、といった日常生活上の問題を呈することがあります。

《今までのリハビリと何が違うのか?》

半側空間無視の症状に対しては、机上でのプリントを用いて、いかに無視しやすい空間に注意や視線を向けるか、という練習を主に

行ってきました。@Attention は、タッチパネル付きディスプレイと一体になったコンピューターと視線検出/入力用センサーで構成されています(図1)。画面に表示された各オブジェクト選択をどのくらいの速さでタッチできるか、また課題実施中の眼球運動軌跡が記録可能です。反応時間と眼球運動双方の特性をみることで、今まで以上に詳しく患者様の状態を把握することが可能となります。また、「リハビリツール」では患者様一人ひとりに対応した項目を選択して実施することが可能です。今までのリハビリと併用して、より多面的な視点から介入することが可能になりました。導入されてから2ヶ月間で40名以上の方に使用させていただき、「操作がわかりやすい」「結果がわかりやすく表示される(図2)」「楽しく取り組めた」といった感想を頂いております。今後とも新しい機器を活用しつつ、患者様、ご家族への良質なサービスの提供に繋がるよう努力して参ります。



図1 @Attention 実施の様子

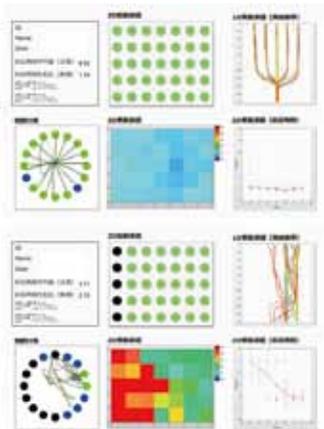


図2 結果図(上段が健常者、下段が患者さん)

地域包括ケアシステムにおける当施設の役割

介護老人保健施設シルバーケア敬愛 副施設長 高橋 昌

「地域包括ケアシステム」とは、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目標に、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援のサービスが包括的に行われる体制を言います。

介護老人保健施設の理念は、①包括的ケアサービス施設（医師・看護師・介護福祉士・支援相談員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の多職種によるチームアプローチ）、②維持期のリハビリテーション施設、③在宅復帰施設、④在宅生活支援施設、⑤地域に根ざした施設とあり、「地域包括ケアシステム」の中心となる役割を担っています。

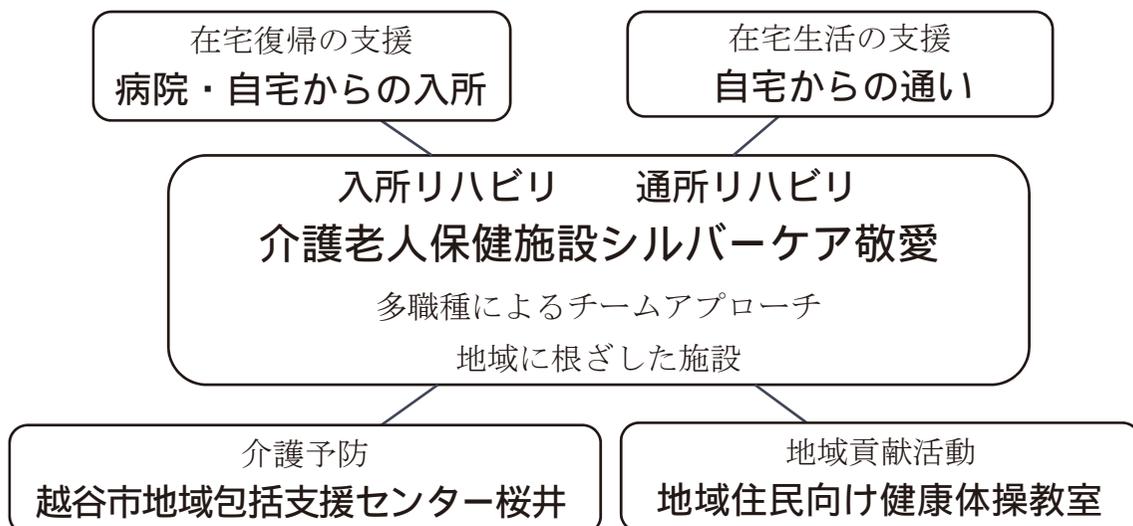
シルバーケア敬愛においては、理学療法士11名・作業療法士5名・言語聴覚士2名、計18名のセラピストによる、他施設にはない手厚い個別リハビリが特徴です。

●入所では、病院退院後や自宅において体力低下があった場合に、セラピストによる充実した個別リハビリを行うもので、特にリハビリ強化型入所においては、1日60分の個別リハビリを提供しています。

●通所リハビリでは、心身機能や日常生活動作能力の維持・向上を図るために、セラピストによる個別リハビリ・マシントレーニング・集団体操・歩行訓練を行い、自宅において自立を促す支援を行っています。

●その他に、桜井地区の「越谷市地域包括支援センター事業」への協力と、地域貢献活動として「地域住民向けの健康体操教室」を実施しています。

今後も「地域包括ケアシステム」においてシルバーケア敬愛は、要介護者の自立支援と家族の介護負担の軽減、及び地域住民の介護予防を図ってゆきたいと思っています。



編 集 手 帳

✦今年の元旦も病院の窓から遠く離れた富士山の勇姿を眺めることができました。富士山は私共に「大きく伸びよ」と語りかけています。私は誓いました。「リハビリに特化した法人の諸施設を地域の人々に役立てて頂けるよう全力をもって頑張ろう」と。

✦今年は平和の祭典、東京オリンピック・パラリンピックイヤーで全地球人の心が一つになって、人々の色々な頑張りが報われることになればと大いに期待しています。同時に平和の祭典をキッカケに、この地球上から武力を含むあらゆる暴力が消え去ればと願っております。

✦しかし、年が明けても中東各地、アフリカ各地、ウクライナなどでの武力衝突、世界各地での残虐なテロ行為、覇権主義や独裁体制

維持に力を注ぐ国も少なくありません。数え上げれば切りがないほど暗いニュースで満ちております。なぜ、人間はそれ程までに醜いものなのでしょう。

✦当然のことながら世界情勢は日本にも影響を及ぼします。それにしても日本の国会は何と能天気なことでしょうか。直近の臨時国会は「桜国会」と称され、大変レベルの低いものでした。重要課題である日米貿易協定、ホルムズ海峡への自衛隊派遣、国民投票法改正、香港支援の国会決議、習近平中国国家主席「国賓来日」の是非、北朝鮮の脅威への対応、ウイグル人権弾圧問題等々が山積しているというのに、これは一体どういうことなのでしょう。責任の一端は左派系のメディアの報道姿勢にもあるような気がします。皆さんはどう思われますか。

(理事長天草大陸)

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得しています。

なお、老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のことば

新元号「令和」となり2020年は新しい12支のサイクルがスタートする年でもあります。令和には、人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められています。今回は、外来水曜日の利用者様とご家族様にご協力頂き今年の干支の子(ね)の衝立を作成致しました。通所リハビリでは、今年もゆっくり個々のペースに合わせ利用者様が安全に安心してリハビリに参加できるよう進めてまいります。作品は1階の通所リハビリ室に飾っておりますのでご覧ください。(外来スタッフより)